

旗・幟(のぼり)の布メディアで 進化を続ける100年企業

サブティール株式会社

東京・銀座中央通りの街灯フラッグ。通りの両サイドに一列に掲げられた何十枚ものクリスマス用バナーフラッグが、12月25日の夜中を境に一齐に日の丸国旗に入れ替わる。新年を迎える銀座が見せる毎年恒例の風物詩だ。この銀座の街灯フラッグを数十年間にわたり手掛けているのが、旗や幟(のぼり)、横幕、懸垂幕など、大小さまざまな布製メディアで時代を切り拓いてきたサブティール株式会社だ。

◆東京五輪が飛躍の転換点

創業109年。友禅染め職人であった初代齊藤甚四郎が、のれんや国旗、優勝旗など宣伝物の染色事業を始めたのが発祥。上皇上皇后両陛下のご成婚当時には、美智子様が使用する

る油筆を手染めで製作した。そして迎えた1964年の東京五輪では、サブティールが、五輪で使用する旗染めの9割程度を担当することになった。4代目の齊藤壽一郎社長は「前回の東京五輪が当社飛躍の大きな転換点になった」と説明する。

以降、高度経済成長の波に乗り、サブティールは旗や幟を中心とした商業広告物の製作供給で業容拡大したが、見逃せないのが数々の先進技術確立してきたことである。例えば、1971(昭和46)年に業界で初めて開発、導入した多色刷りを可能にする全自動大型捺染機が挙げられる。顔料を捺染印刷する機械で、当時アパレルメーカーに同種のマシンはあったが、幟などの大型サイズのデザインへの転用は難しく、かつ多くの色を個別に制御することはできなかった。サブティールは機械メーカーと手探りで試行錯誤を重ねた末、大型の印刷版を使用したシルクスクリーン印刷機の開発にこぎつけた。

「あくまで顧客の高度な要求に応えるのが目的。変化を厭わず、新たなことに挑戦していく姿勢が当社の基本姿勢」(齊藤社長)と話し、サブティールは、他社に先駆けたポリエステル生地への印刷や、業界初となるカラー分解による写真印刷などの実現に加え、上海工場設立などの海外進出へも挑戦してきた。齊藤社長は「時代の変化を見極めながら、全社



東京・銀座中央通りの街灯バナーを日の丸国旗に

経営理念／社是

〈経営理念〉

1. 誠実な企業活動を通じて、社会から信頼される企業を目指す
2. グローバルな事業展開の中で常に革新を行い、顧客に魅力ある価値を提供できる価値創造企業を目指す
3. 世界で通用する会社を目指す

〈社是〉

Think =考える



代表取締役社長
齊藤 壽一郎 氏

●長寿の秘訣

齊藤社長が好んで掲げる「不易流行」を実践してきた老舗企業。誠実、謙虚の本質を変えずに、変化を重ねて進化する。旗・幟・幕という古くからある布サインの文化を、時代のニーズに合わせて発展させてきた。そこにあるのは不変的な伝統技術に固執するのではなく、科学を貪欲に採り入れ自らを変化させていく挑戦者の姿だ。良いモノや優れた技術だけでは通用しなくなったいま、布メディアの新たな価値創出に向けて挑戦し始めたサプティ。これからも業界の先駆者としてのポジションは変わらない。



創業 100 周年記念史『不易流行』

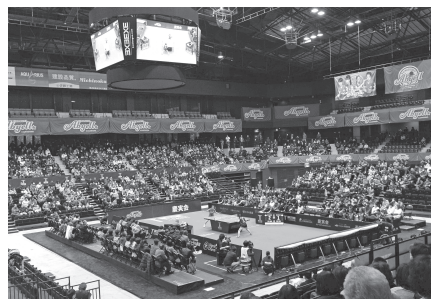


1964 年東京五輪で使用する装飾幕の製作風景

●会社概要

創 業：1912（明治 45）年
 設 立：1950（昭和 25）年
 所 在 地：東京都中央区日本橋堀留町 2-3-8 田源ビル 7F
 事業内容：旗・幕・バナー・のれん・工芸品などの制作および各種イベントの演出に向けた、企画提案、装飾、施工、制作物の提供等
 資 本 金：1 億円
 社 員 数：50 名

URL：<https://www.sapti.com/>



卓球の試合会場を装飾

的な進化を目指して挑戦を続けることが大事」と強調する。アナログな布メディアを扱いながら、数々の挑戦を繰り返してきたことが、新たな顧客を呼び込み、新たな事業機会を創出し、サプティのビジネス領域を拡大してきたと言える。

◆スポーツ応援や街の彩りに貢献

いま、サプティは、次の 100 年を見据えている。旗や幟、垂れ幕等を屋内、屋外で用いた多様な総合プロモーションを提案できる対応力を備える一方、特に力を入れているのがスポーツ文化の活性化への貢献だ。「元来、当社の事業はスポーツ文化との親和性が非常に高い」（齊藤大樹常務）とし、プロアマを問わずさまざまなスポーツや競技を持ちながら、試合会場を装飾する大型幕や応援旗などを手掛けている。さらに街自体をさまざまなフラッグ、バナーや幕、あるいはデジタルサイネージなどで装飾しながら調和の取れた景観に仕上げるシティー・ドレッシングと呼ばれる動きへの関わりも増えており、「今後は宣伝用広告物ばかりではなく、パブリックな領域での貢献を視野に、これまで培ってきた経験を役立てていきたい」（齊藤社長）と語る。明治 45 年の創業から、大正、昭和、平成を歩んできたサプティは、令和の時代にふさわしい進化を遂げることになるだろう。